

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23320126

研究課題名(和文) 障害者の労働に関する比較史的研究

研究課題名(英文) Comparative Historical Research on Labor of Persons with Disabilities

研究代表者

藤原 哲也 (Fujiwara, Tetsuya)

福井大学・医学部・教授

研究者番号：30362338

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,300,000円

研究成果の概要(和文)：比較史的視点を用いた本研究では、工業化の発展によって障害者は一層労働能力が重視されるようになり、職業訓練政策と相まって就労可能な障害者が労働市場への参入を促す一方、就労困難な障害者が労働市場から排除されるという二極化現象を見出した。さらに、本研究の主たる分析期間である二度の世界大戦においても、各国間に同様の二極化現象(障害者の労働市場への参入・排除)の傾向があることが分かった。

研究成果の概要(英文)：In this research employed by comparative historical perspectives, we find that development of industrialization asked persons with disabilities to demonstrate labor capability, and that while vocational training policy urged capable persons with disabilities to participate in the labor market, their incapable counterparts were excluded from the labor market, which became bipolarized among the disability population. Furthermore, we also recognize that in the period between World War I and II, each country our research members analyzed showed a tendency of the bipolarization phenomenon (entry and exclusion to disabled persons' labor market)

研究分野：日本近代史、アメリカ史

キーワード：障害者 労働 比較史 障害学 雇用

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 障害者の労働の歴史を明らかにしようとする本研究は、学術創成研究『総合社会科学としての社会・経済における障害の研究』(平成19年～23年度、研究代表者:松井彰彦(東京大学))の「障害の歴史研究会」の参加メンバーによって構成されている。この研究では、近代における日本・イギリス・ドイツの障害者のあり方を比較検討した上で、障害者のあり方が歴史的に規定されていること、諸制度(法、政策)組織(国家、学校、病院)専門職(医師)が障害者のあり方や生活に大きな影響を与えているという結論を得た。

(2) 「障害の歴史研究会」における学術交流を通じて、我々は近代の障害者像を把握するために障害者の労働状況を分析する必要性を痛感した。なぜならば、分析対象国とする日本・アメリカ・イギリス・ドイツにおける工業化は、労働をして金銭を得るという方法に人々の生活を変化させたからである。一方で、確かに相互扶助が障害者の生活を支援する上で都市・農村・地域において相違を見せながらも、近代においても続いていたことも事実であろう。さらに、我々が何よりも障害者の労働に関して着目している理由は、今までの統計・記述資料の検討によって、少なからずの障害者が工場や地域で就労していた事実を確認しているからである。これらの点を踏まえつつ、障害者の労働状況を第一次史料の発掘と並行しながら改めて分析することが今後の研究課題としてますます重要であることが分かった。

(3) 障害者の労働状況の歴史分析に関しては、先行研究の不在が挙げられる。日本における労使(資)関係を軸として企業内福利厚生、労働災害扶助などに関しての言及はあるものの、障害者の雇用の実態などについて明らかにされていない。このことは障害者史において一定の進展が認められる欧米の研究においてもまた同様である。法制度・施策の変遷についての歴史研究は散見されるが、障害者の労働状況が明らかにされておらず、このテーマに関する実証的な比較史的検討も発表されていない。以上の点を踏まえて、障害者の労働状況の歴史分析をとおして、新たなマイノリティ史の構築が期待できるため、本研究を立案するに至った。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、近現代の日本・アメリカ・イギリス・ドイツにおける障害者の労働状況の実態を分析し、この時代の障害者のあり方を提示し、障害者というマイノリティに着目することによって、新たな近代史像を創出することである。

## 3. 研究の方法

本研究では、日本・アメリカ・イギリス・ドイツにおける近代の障害者の労働状況に影響(関係)する主要因として国家、支援機関、企業、家族・地域の4つを提示する。障害者が労働者として働く際には、これら4つの要因が大きく関わってくるため、各研究対象国の社会的・文化的規範に注意を払いながら、障害者が働くということ自体が各要因によってどのように捉えられてきたのかについて分析する。

## 4. 研究成果

比較史的視点を用いた本研究では、工業化の発展によって障害者は一層労働能力が重視されるようになり、職業訓練政策と相まって就労可能な障害者が労働市場への参入を促す一方、就労困難な障害者が労働市場から排除されるという二極化現象を見出した。さらに、本研究の主たる分析期間である二度の世界大戦においても、各国間に同様の二極化現象(障害者の労働市場への参入・排除)の傾向があることが分かった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

山下麻衣、「1908年から1940年における日本赤十字社の収入構造から見た事業展開」、京都産業大学論集、査読有、31号、2014、179-200

山下麻衣、「日清戦争以降満州事変以前における日本赤十字社の救護の変遷」、京大マネジメント・レビュー、査読有、25号、2014、25-38

中野智世・前田更子・尾崎修治・渡邊千秋、「ヨーロッパ近代のなかのカトリシズム」、西洋史学、査読有、252号、2014、59-70

鈴木晃仁、「精神医療と文学の形成 昭和戦前期東京の精神病院の症例誌から」、科学哲学、査読有、47巻2号、2014、33-51

鈴木晃仁、「昭和戦前期精神病院の症例誌について」、アーカイブス学研究、査読有、第18号、2013、23-45

鈴木晃仁、「Psychiatry in the Land of Suicide: Medicalization of Self-killing in Early Twentieth-Century Japan」、日本医学史学雑誌、査読有、vol.59, no.1、2013、3-15

[学会等発表](計21件)

鈴木晃仁、「The Psychiatric Case Record from the Patient's Point of View in

Japan in the Early Twentieth Century,” Association for Asian Studies Annual Conference, (アメリカ、シカゴ)、2015年3月27日

鈴木晃仁、”Religion, Literature and Subjectivity: The Regime of Psychiatric Practice and the Making of Patient’s Self in Early Showa,” Workshop on Mental Health in Japan, ピッツバーグ大学(アメリカ、ピッツバーグ)、2015年3月6日

今城徹、パネル報告：近代日本における戦傷病者「戦前期日本の軍人恩給制度」、社会経済史学会、同志社大学(京都)、2014年5月25日

山下麻衣、パネル報告：近代日本における戦傷病者「1908年から1940年における日本赤十字社の費用構造から見た事業展開」、社会経済史学会、同志社大学(京都)、2014年5月25日

藤原哲也、パネル報告：近代日本における戦傷病者「1945年から1963年における傷痕軍人とその家族の戦後史」、社会経済史学会、同志社大学(京都)、2014年5月25日

鈴木晃仁、”Modernism and Mental Illness in Early Twentieth-Century Tokyo,” Richardson Seminar, Institute for the History of Psychiatry (招待講演)、コーネル大学(アメリカ、ニューヨーク)、2014年5月22日

鈴木晃仁、「日本精神医学における精神疾患調査について」長崎大学熱帯医学研究所、山本太郎研究室セミナー、長崎大学(長崎)、2013年12月9日

大谷誠、「イングランドにおける『精神薄弱児』とコミュニティ・ケア事業：1920 - 1950」経営史学会関西支部、京都大学(京都)、2013年11月30日

中野智世、「社会国家と民間非営利団体  
戦後ドイツにおけるカリタスを例として」身体・環境史研究会、同志社大学(京都)、2013年11月23日

鈴木晃仁、「日本精神医学の近代化モデルの  
再考」、日本科学哲学会シンポジウム「精神医学の哲学：精神疾患概念の再検討に向けて」法政大学(東京)、2013年11月23日

鈴木晃仁、”Modernism and the

Experience of Mental Illness in Tokyo 1925-1945,” 「精神医学在東亜世界的差異」工作坊、Academia Sinica (Taipei)、2013年11月22日

鈴木晃仁、”Modernist Culture and the Experience of Mental Illness in Tokyo 1925-1940,” Tokyo Conference on Philosophy of Psychiatry, 東京大学(東京)、2013年9月21日~23日

鈴木晃仁、”Modernist Culture and the Experience of Mental Illness in Tokyo 1925-1940,” Comparative Modernisms: Psychology, Literature, and Affect, 成蹊大学(東京)、2013年9月14日

鈴木晃仁、「フィールド調査と精神医学：戦前の帝国と優生学」、本郷医療経済研究会、東京大学(東京)、2013年5月30日

大谷誠、「20世紀前半イングランドにおける『精神薄弱児』とコミュニティ・ケア  
ロンドンを事例として」、第18回ワークショップ西洋史・大阪、大阪大学(大阪)2013年5月25日

鈴木晃仁、”Earthquake, War and Peace: The Making of Traumatic Neurosis in Modern Japan,” Workshop “Aftershock,” University of Copenhagen (Denmark)、2013年5月22~24日

中野智世、「ヨーロッパ近代のなかのカトリ  
シズム 宗教を通して見えるもう一つの『近代』」、日本西洋史学会第63回大会小シンポジウム、京都大学(京都)、2013年5月13日

藤原哲也、”Care Aspect of Japanese Disabled War Veterans in the post-Pacific War Period,” The 6<sup>th</sup> Conference for the Asian Society of the History of Medicine, 慶応大学(神奈川)、2012年12月13~15日

山下麻衣、”Domiciliary Nurses in Tokyo Before WWII,” The 6<sup>th</sup> Conference for the Asian Society of the History of Medicine, 慶応大学(神奈川)、2012年12月13~15日

鈴木晃仁、”Empire, Eugenics, and the Psychiatric Population in Japan 1930-1945,” The 6<sup>th</sup> Conference for the Asian Society of the History of Medicine, 慶応大学(神奈川)、2012年12月13~15日

- ②1長廣利崇、「戦前期日本企業の障害保障」、  
日韓経営史会議、福井県立大学（福井）、  
2012年5月19日

〔図書〕（計3件）

デヴィッド・ライト（著者）大谷誠（訳者）、  
『ダウン症の歴史』、明石書店、2015

山下麻衣（編者）、藤原哲也、鈴木晃仁、中  
野智世、大谷誠、長廣利崇、小林文広、廣  
瀬浩二郎（論文執筆者）、『歴史のなかの障害  
者』、法政大学出版局、2014

Tetsuya Fujiwara, “Japan’s other  
Forgotten Soldiers,” in *Japan Since 1945*  
edited by Christopher Gerteis and  
Timothy S. George, Bloomsbury, 2013,  
122-140.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

藤原 哲也（FUJIWARA, Tetsuya）  
福井大学・医学部・教授  
研究者番号：30362338

### (2) 研究分担者

鈴木 晃仁（SUZUKI, Akihito）  
慶応大学・経済学部・教授  
研究者番号：80296730

山下 麻衣（YAMASHITA, Mai）  
京都産業大学・経営学部・教授  
研究者番号：90387994

中野 智世（NAKANŌ, Tomoyo）  
成城大学・文芸学部・准教授  
研究者番号：90454470

大谷 誠（OTANI, Makoto）  
同志社大学・人文科学研究所・嘱託研究員  
研究者番号：10536105

長廣 利崇（NAGAHIRO, Toshitaka）  
和歌山大学・経済学部・准教授  
研究者番号：60432598

### (3) 連携研究者

小林 文広（KOBAYASHI, Takehiro）  
同志社大学・文学部・教授  
研究者番号：60467397

廣瀬 浩二郎（HIROSE, Kojiro）  
国立民族学博物館・民族文化研究部・准教  
授  
研究者番号：20342644

今城 徹（IMAJOH, Toru）

